

タイ経済指標斜め読み

(2025年10月版)

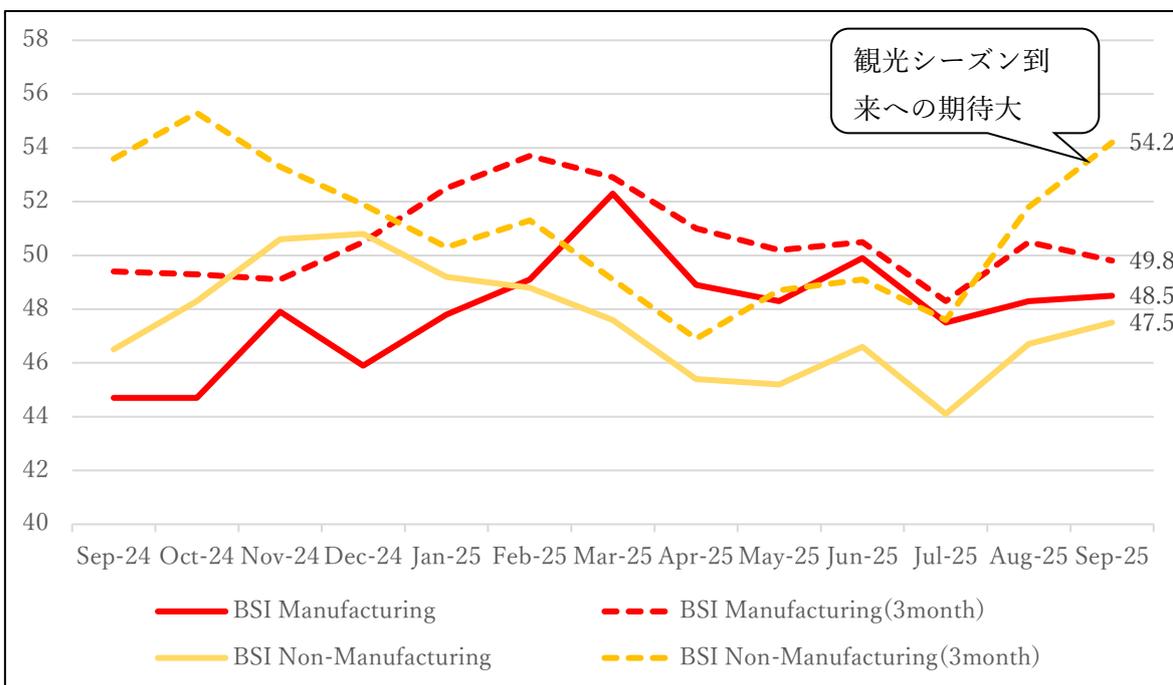
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■指数データ】景気指数

タイ中央銀行（BOT）は、9月のビジネス景況感指数（BSI）を発表した。下グラフはその構成要素である製造業BSIと非製造業BSIとなる。（50＝前月から不変）

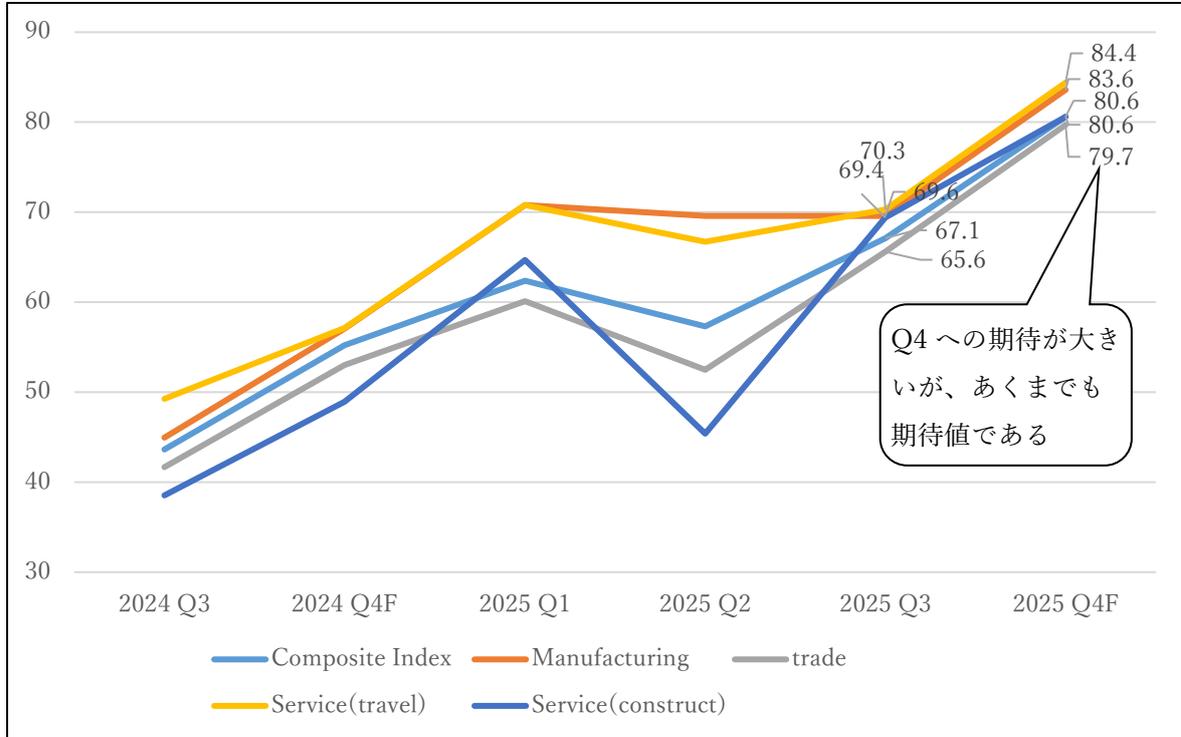


製造業BSIは48.5、同三か月後の期待値は49.8となった。非製造業BSIは47.5、同三か月後の期待値は54.2となった。製造業は非製造業に比べ改善率が低い要因として、魚介食品関連産業の輸出が減退したことが振るわなかったことが挙げられている。これは、トランプ関税が発効される前に大量に輸出を行った事への反動。とは言え、セミコンダクターなどの精密部品は依然好調とのこと。とは言え、依然指数は50を下回る状況にあり、楽観的ではない。次に、非製造業だが、タイ政府の景気刺激策があり、それが一定の効果を上げていることや、10月以降、雨季が終わり、旅行シーズンが始まることへの期待感から、非製造業の3か月後の期待値は大きく上昇した。

出所：<https://www.boi.go.th/>

■No. 2 ■ 【指数データ】SME期待指数

SMEデベロップメント銀行 (Small and Medium Enterprise Development Bank of Thailand) は、2025年Q3とQ4 (期待値) のSME Entrepreneurs' Confidence Index toward the Economy and Businessを発表した。これは、同行が500のSME企業を対象に行った調査となる。



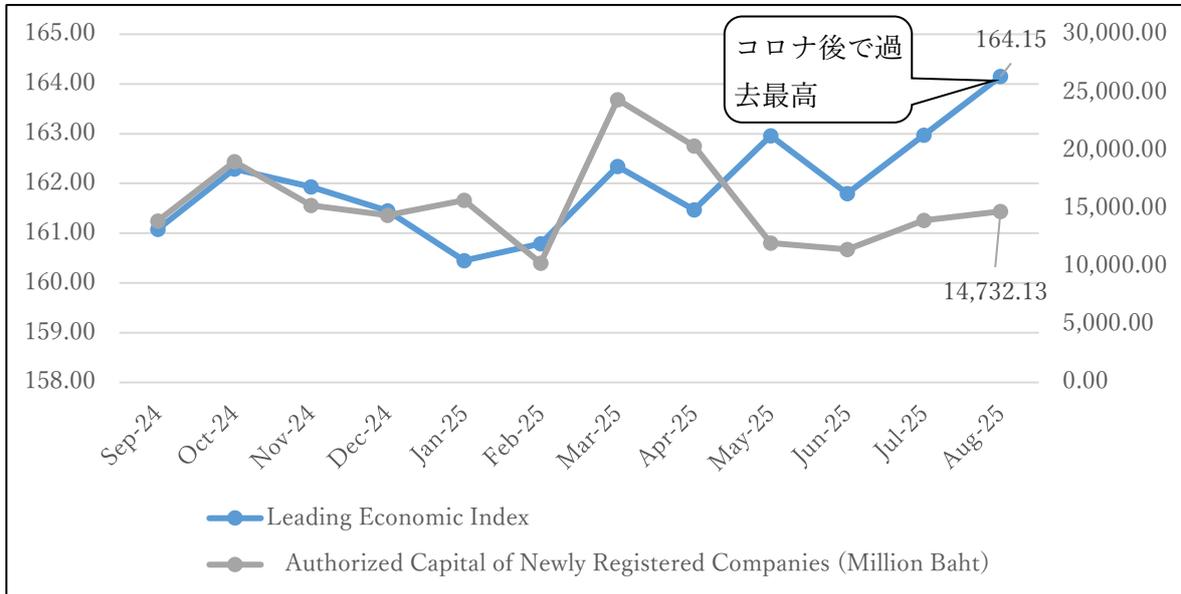
50 = 変化なし、50 < 改善、50 > 改悪

Q3の同指数の平均値は67.1となり、他の指数全てがQ2から改善となった。Q2はトランプ関税の影響をものを受け、落ち込みが激しい結果となったが、Q3に同関税が19%に落ち着いたことや、タイ政府の中小企業支援策があり、一定の効果を上げたことによる。Q4の期待値に関しては、同指数の平均値が80.6となった。中でもトラベルセクターが最も高く84.4を記録、以下製造業が83.6と続いた。10月から乾季に変わり旅行シーズンが到来し、旅行客の増加が期待できることが要因。また、同行は、Q2の銀行の借り入れ比率が21.1%からQ3は42.2%と倍増、特に観光関連からの借り入れが増加したと伝えた。とは言え、対米でのパーツ高や中国経済の低迷による中国人観光客の減少は続く模様で、期待がそのまま現実になるとは限らない。

出所：<https://www.smebank.co.th/>

■No. 3 ■【指数データ】景気先行指数

タイ中央銀行（BSI）は、8月のLeading Economic Index（LEI：景気先行指数）を発表した。これは経済指標の一つであり、将来（今後6カ月間）の経済の方向性を予測するためのもの。株価、土地開発許可、企業の登録資本額、オイル価格など経済全体の変動よりも前に変動するいくつかの個別の指標から成る複合指数で構成。（2000年＝100）

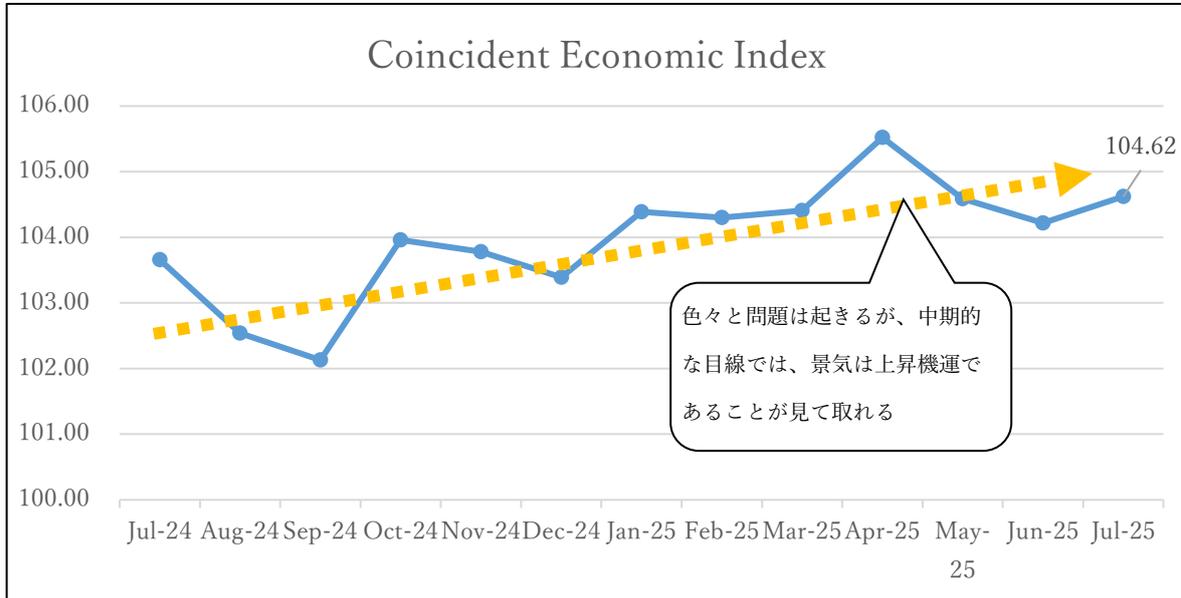


8月のLEIは164.15となり、2021年のコロナ禍以降で最高の指数となった。また、新規登録企業の登録資本金額に関しても、2か月連続で増加となった。8月はトランプ関税が19%になるとの発表があった月で、ベトナムなどの競争関係にある国と変わらぬ税率となったことで、安心感が広がったことによる希望的観測が反映されたものとなる。一方、首相交代、カンボジアとの国境紛争など不安定要素もあるが、市場は年後半にかけて景気は回復に向かうとの予想をしている。

出所：<https://www.boi.go.th/>

■No. 4 ■【指数データ】経済指数

タイ中央銀行（BOT）は、7月の一致経済指数（Coincident Economic Index：CEI）を発表した。これは、タイの主要経済指数である国内総生産（GDP）、民間消費、雇用状況、個人所得などの経済データを基に計算されたもので、現在の経済状況を図るうえで、有用な指標です。（2019年＝100）



7月のCEIは104.62となり、三ヶ月ぶりに前月比でプラスに転じた。Q2のGDPが予想よりも良かったことや、電子製品の輸出が好調だったこと、トランプ関税前の駆け込み輸出増、タイ政府の景気刺激策などの効果があり、上昇に転じた。一方、自動車輸出や同国内販売などの耐久消費財の売れ行きは鈍化しており、国内消費が活性化していない状況。とは言え、8月にトランプ関税が19%となり、米向け輸出に関しては、改善が見込まれると予想される。また、株価も持ち直してきていることや外国投資は増加しており、景気回復は緩やかに進んでいくと思われる。

出所：<https://bot.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2025 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。